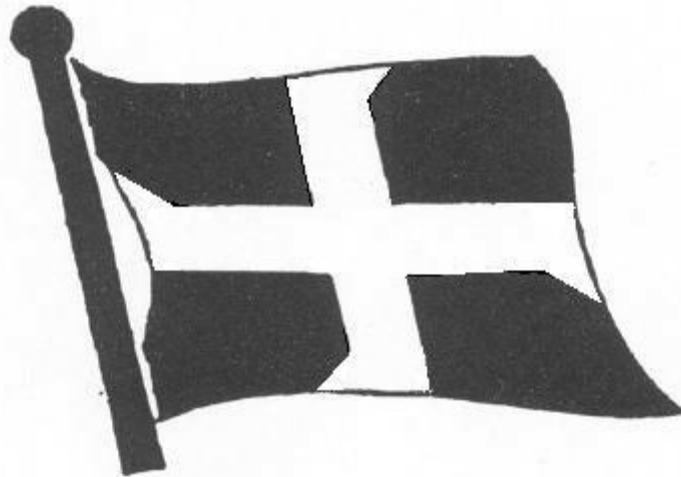


蒼穹 NEWS

NO.2

関西インカレ総括号

平成 29 年 5 月 20 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、監督挨拶
- 2 関西インカレ結果
- 3 関西インカレ詳細
- 4 新入生名簿
- 5 関西インカレ OB 様名簿

1. 主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

先日行われました関西インカレでは、男子が 58 点の 6 位、女子が 2 点で、合計 60 点という結果に終わり、チーム目標に掲げていた「男女合計 84 点超え」を果たすことはできませんでした。この目標は、近年最高成績を超えるというものであると同時に、関西インカレで戦い続ける初年として必要となる結果と考えていたものであり、今回の結果をしっかりと受け止め、今後に向かっていく必要があると思っております。

去年は出場を逃した 10000mW の高野圭(3)が 3 位に入賞したり、十種競技の澤(4)が 7 種目で自己新を記録して 5 位に食い込んだりという結果がある一方で、関西学生新記録を樹立して優勝し大会最優秀選手にも選ばれた山西(4)や、石田(M2)といった選手に頼る部分が依然大きい結果となりました。ここからの伊勢予選、七大戦、東大戦といった対校戦では、よりチームとしての総合力が求められます。関西インカレで戦い続けられる「強い」チームになるためにも、学部生を中心に新たな戦力が台頭してくるよう、これからもチーム全体で一層の精進を重ねて参りたいと考えております。

最後になりましたが、蒼穹会の方々には関西インカレの 5 日間、ご多忙のなか多大なるご声援をいただきました。心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援ご声援のほど、何卒よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 浅野 智司

監督挨拶

5月10日から4日間行われた関西インカレT&Fの部が終了し、ハーフも含め5日間にわたる戦いが終了しました。今大会は、男子58点で総合6位、女子は2点を獲得しましたが、目標を達成することはできませんでした。今大会では、4回生と院生の活躍がチームをけん引しました。石田(M2)の幅跳び、100mでの表彰台や、十種競技の澤(4)、4継は蒼穹新記録を打ち立て、見事得点を挙げてくれました。また、10000mWでは、山西(4)は圧倒的な強さで関西学生記録を打ち立て、高野圭(3)、高野寛(3)も粘りながら得点を重ねてくれました。それでも目標の男女総合84点には届かず、関西の壁の厚さを感じるとともに、チームとしての力の底上げが足りなかったと痛感する結果となりました。来年以降は常に強さを示してきた部員の多くがチームを去り、例年になく厳しい戦いを強いられることが予想されます。3回生以下には、危機感を持ち関西のレベルの高さにひるむことなく自分が得点を取るんだという気概を持って精進してもらいたいと思います。

さて、1か月後には全日本大学駅伝予選会が行われます。ここ2年達成できずにいる全国大会出場を、長距離部員を中心にチーム一丸となって目指していきます。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様のご声援が5日間という長い戦いを繰り広げる選手の後押しをしてくださいました。平日開催が多かったのにも関わらず、応援に駆けつけてくださった皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 紀平 直人

2. 関西インカレ結果

第94回関西学生陸上競技選手権大会

男子一部総合成績

1位	関西学院大学	235点
2位	立命館大学	128点
3位	大阪体育大学	110.5点
4位	同志社大学	99点
5位	近畿大学	62点
6位	京都大学	58点
7位	京都産業大学	56点
8位	大阪教育大学	46点
9位	天理大学	40点
10位	関西大学	25.5点
11位	大阪大学	18点
12位	京都教育大学	15点

男子一部トラックの部

1位	関西学院大学	160点
2位	立命館大学	71.5点
3位	近畿大学	60点

男子二部総合得点

1位	龍谷大学	145点
2位	びわろポ大学	135点
3位	摂南大学	81点

男子一部フィールドの部

1位	大阪体育大学	66.5点
2位	立命館大学	56.5点
3位	関西学院大学	55点

女子総合得点

1位	立命館大学	150点
2位	大阪成蹊大学	137点
3位	武庫川女子大学	99点

男子一部混成の部

1位	大阪教育大学	19点
2位	関西学院大学	7点
3位	大阪体育大学	7点

3.関西インカレ詳細

・第一日目 4月20日(木)

(長居周回コース)

ハーフマラソン

1位	奥村 杏平	京都産業大	1:05:07
2位	坂東 剛	関西学院大	1:05:42
3位	野中 優志	関西学院大	1:06:01
4位	元木 駿介	京都産業大	1:06:32
5位	柴田 裕平	京都大	1:06:36
6位	久保 拓海	京都産業大	1:06:42
7位	宇野 幹也	同志社大	1:06:49
8位	山口 晃平	関西大	1:06:59
14位	原田 麟太郎	京都大	1:09:19
15位	下迫田 啓太	京都大	1:09:30

全種目の口火を切り4月20日行われたハーフマラソンには、下迫田(M2)、柴田(4)、原田(2)の3名が出場した。先頭集団は周回コースに入り1周目まではゆったりとしたペースになった。柴田と下迫田はここに付け、原田はその後ろの集団で落ちついて入る。先頭集団はその後ペースアップし、5-10kmが15分10秒となったところで柴田は先頭から少し離れての単独4位、下迫田は8位入賞圏内となる5位集団からは遅れをとった。その後も柴田は自分のペースを守り、一時は3位の関学野中と20秒弱となるまで詰めた。しかしラスト2kmで足を攣りかけた影響もあって最後は失速し、1人に抜かれて5位でのゴールとなった。下迫田は8位入賞を狙った積極的なレースであったが後半は苦しみ15位、後方集団から粘りを見せ前に上がってきた原田が自己ベストを更新して14位でゴールした。チーム目標の男女総合84点に向け、まずは4点を確保できた。

・第二日目 5月10日(水)

ヤンマースタジアム長居

女子1500m 予選 (3-3+3)

岸本 絵理 (4) 1組4着 4.39.77 PB

増田 茄也子 (3) 3組15着 4.57.93

1組には岸本が出場した。1周目70秒で通過後先頭5人が抜け出しそれを追いかける形となった。落ちてくる選手を淡々と狙い意地のスパートでなんとか4着に入るも、プラスでの決勝進出には惜しくも届かなかった。3組には増田が出場した。1周71秒通過の集団後方に食らいつくも前半で消耗してしまい、厳しい結果となった。(田中仁)

男子1500m 予選 (2-4+4)

土田 侑秀 (3) 1組9着 4.01.26 PB

木村 佑 (1) 1組11着 4.03.31

岡野 颯斗 (M1) 2組5着 3.55.62 q

1組には土田、木村が出場した。1周目64秒、2周目66秒と比較的落ち着いたペースの中、両選手は集団後方で試合を進めた。残り1周で先頭がペースアップすると、土田は粘りの走りでPB更新を果たした。木村は得意のスパートをかけられず悔しい結果となった。2組は岡野が出場した。1周目61秒、2周目64秒とやや速い展開も集団前方で通過。残り1周時点で集団後方に位置を下げるも、バックストレートから落ち着いて順位を上げ、決勝進出を決めた。(田中仁)

女子 400m 予選 (4-1+4)

小野 萌子 (3) 2組 5着 59.92 PB

2組に小野が登場。スタートからスムーズに加速し、バックストレートも力みのない走りをするが、周りの選手にじわじわと差をつけられる。200m～300mで更に差をつけられるが、ラスト100mで怒涛の追い上げをみせ、最後に一人躲して5着でゴールした。(清水利)

男子 400m 予選 (4-1+4)

紀平 直人 (M1) 3組 6着 51.36

3組に監督紀平が登場。前半から抑えることなく飛ばすがバックストレートで伸びず、力を使いすぎたのか200m以降徐々に失速。300mまでは意地の走りで周りの選手と互角だったが、ラスト100mは大きく失速し、前の選手に離されて6着のゴールとなった。(清水利)

男子 100m 予選 (4-3+4)

石田 真也(M2) 2組 1着 10.42 +1.2 Q

庄司 溪 (4) 3組 7着 10.94 +0.3 PB

安藤 滉一 (3) 4組 6着 10.80 +0.5

男子100m予選には2組に石田(M2)、3組に庄司(4)、4組に安藤(3)が出場した。石田はスタート直後から他大の選手を大きく引き離し、ラストは余裕を見せた走りで1着でゴールした。全体2位で準決勝へ駒を進めチームを盛り上げた。庄司は予選突破は叶わなかったものの自己ベストを更新する快走であった。安藤は前半少し遅れをとってしまうが、後半他大の選手にくらいつく必死の追い上げを見せた。惜しくも予選通過はならなかったが実力は十分に持っており来年の活躍が期待される。(小野貴)

男子 110mH 予選 (3-2+2)

田中 伸幸 (4) 3組 7着 15.20 +0.6

男子110mHには田中が出場。昨シーズンまでは記録が伸びず苦しんだものの、京都インカレでB標準を切った出場となった。更なる自己ベスト更新、蒼穹新に期待がかかる。展開としては、1台目を抜き足で対してしまいバランスを崩し失速、後半は粘りいい走りをみせ挽回したが組7着、また決勝ラインが全カレB標準でも届かないハイレベルということもあり、決勝進出はならなかった。(吉川)

男子 1500m 決勝

1位 仲村 尚毅(関西学院大 4) 3:51.07

2位 浜田 泰輔(関西学院大 4) 3:53.17

3位 神谷 天地(関西学院大 4) 3:54.08

10位 岡野 颯斗(京都大 M1) 4:03.85

男子1500m決勝には岡野が出場した。スタート後、岡野は前方に位置取り400mを64秒前後で通過する。500m付近から実力のある関学3人が先頭に出て一気にペースアップする。岡野は単独でそれを追おうとするが、ペースを上げきれず逆に後続集団に吸収される。その後集団からも遅れ結局10位でのゴールとなった。本人は関学勢の一角を崩しての3位が目標ただけに悔しい結果となった。(大前)

男子 4×100mR 予選 (2-3+2)

安藤—石田—庄司溪—林大 1組 3着

40.07 Q **蒼穹新**

男子4×100mR予選は安藤、石田、庄司、林のオーダー。1走安藤は100mでの悔しさを晴らすべく快走を見せ、いい位置で2走、石田に繋ぐ。バトンパスが詰まり気味になったものの、100m予選でPB付近を出し好調の石田は圧巻の走りで巻き返す。3走庄司は無難にバトンを受け取り、

そのリードを保つ好走を見せる。しかし4走林が少々出が早く、減速してのバトンパスとなり、バトン渡った時点では少し遅れてしまう。しかしベテランの林は粘りの走りを見せ抜き返し、組3着でゴール。見事蒼穹記録を0.33秒大幅更新し、着順での決勝進出となった。バトンパス等まだまだ改善の余地があることから、決勝での更なる蒼穹記録の更新に期待がかかる。(吉川)

男子走幅跳決勝

- | | | |
|-----|----------------|---------------|
| 1位 | 遠藤 泰司 (立命館大2) | 7m80 +0.2 NGR |
| 2位 | 足達 一馬 (関西学院大2) | 7m79 +1.0 NGR |
| 3位 | 石田 真也 (京都大M2) | 7m60 -0.1 PB |
| 17位 | 本居 和弘 (京都大2) | 6m85 +0.5 |
| | 渡辺 祥 (京都大M2) | DNS |

男子走幅跳には石田(M2)、本居(2)が出場した。入賞が期待されていた渡辺(M2)であったが怪我の完治が間に合わず無念の棄権。今年は8ラインが7m30と例年にも増してハイレベルな試合であったが、石田は2本目で7m32を跳びベスト8進出を決める。暫定7位で迎えた最終跳躍で自身のベスト記録を大きく上回る7m60を跳び見事3位へと逆転した。本居は初の大舞台であったが安定した跳躍を見せ記録は6m85。ベスト8進出はならなかったが、今後の京大の跳躍勢を引っ張る存在として成長が期待される。(小野貴)

男子ハンマー投げ決勝

- | | |
|-----|---------------|
| 14位 | 若園 直樹 (京都大M1) |
|-----|---------------|

49m30 PB **蒼穹新**

浅野 智司 (京都大4) NM

男子ハンマー投げにはM1の若園、4回生の浅野が出場した。入賞ラインは56m付近が予想されるハイレベルな試合であるが、先日の記録会で蒼穹新を出した若園、主将としてチームを引っ張る浅野、両選手ともに大記録が期待される試合であった。若園の一投目は足がサークルからはみだしてフェールとなってしまったが、二投目では自身のもつ蒼穹記録を更新する投げを見せた。三投目ではさらなる記録更新とベスト8進出が期待されたが、記録を伸ばすことができなかった。浅野は痛めていた腰の調子が悪く、三投ともまともに投げることにすらまならなかった。思うように実力を発揮することができず悔しい結果となってしまった。今後は怪我の回復に努め、七大戦の活躍に期待したい。(小原)

十種競技(前半)

澤 薫 (京都大4) 3393点 (暫定7位)

100m 10.76 -0.4 PB

400m 50.35 PB

走幅跳 6m74 -0.9

走高跳 1m65

砲丸投 8m93 PB

男子十種競技には澤が出場した。澤は昨年続き二回目の出場だ。100mでは、自己ベストの好タイムを出し、続く走幅跳でも、確実に点数を伸ばした。苦手とする砲丸投と走高跳もそれぞれPB、PBタイを出し、上位陣に食いついていった。十種競技1日目の最終種目となる400mでは、疲労も見える中、自己ベストを更新する走りを見せた。1日目は、3つの自己ベストを出し、順調な滑り出しとなった。十種総合の目標は8位としていたが、1日目は7位

で折り返し、目標以上の順位も十分狙える位置につけた。(五十嵐)

10:15.73 NGR

対校得点(二日目終了時点)

男子一部総合得点

1位	関西学院大学	51点
2位	京都産業大学	31点
3位	立命館大学	19点
5位	京都大学	10点

女子総合得点

1位	武庫川女子大学	19点
2位	園田女子学園大学	17点
3位	立命館大学	13点
	京都大学	0点

第三日目 5月11日(木)

男子 100m 準決勝 (2-4)

石田 真也(M2) 1組1着 10.47 +1.9 Q

100m 準決勝には石田が出場した。予選や走幅跳でも調子のよかった石田はスタートからぐんぐん加速していき、他の走者と差をつけた。そのままスピードにのり、最後は流して1着で準決勝を通過した。(後藤)

女子 3000mSC タイムレース決勝

1位 藪田 裕衣 (京都産業大 4)

10:12.57 NGR

2位 信岡 桃英 (京都産業大 2)

3位 大井 千鶴 (同志社大 4) 10:39.56

20位 岡本 萌巴美 (京都大 4) 12:08.44

女子 3000mSC タイムレース決勝 1組には岡本(4)が出場した。スタートから先頭が飛び出し縦長の列になり、岡本は後ろ側につける。前半はベスト時に近いタイムで通過するものの、体調不良により練習が積めていなかったこともあってか後半 1000m では動きが崩れてしまい、最終的には実力通りのタイムを出すことができず、入賞もなかった。練習を積みなおし、今後の飛躍が期待される。(原田)

男子 100m 決勝 -0.2

1位 多田 修平 (関西学院大 3) 10.22

2位 石田 真也 (京都大 M2) 10.60

3位 坂井 隆一郎(関西大 2) 10.61

男子 100m 決勝には、前日に走幅跳で3位を取り、勢いに乗る石田が出場。スタートしてしばらく経つと、関学の多田が抜け出し、石田は2位を守る展開に。終盤、他の選手の追い上げもあったが、院生の意地を見せ、2位を死守。レース後石田は歩くのが困難なほど左脚のハムストリングスを痛めた。レース中にも痛みを何度も感じたという。石田がこのレースで守り切った2位の裏には計り知れない執念を感じる。(潮崎)



100m 予選を走る石田。
100m のみならず走幅跳でも大量に得点を獲得した。

男子 4×400mR 予選 (2-3+3)

小谷—庄司真—眞杉—加藤 2 組 5 着

3:16.37

男子 4×400mR には、小谷(2)-庄司(M2)-眞杉(4)-加藤(4)が出場した。結果進出は 2 組 3 着+2 で、同じ組には関西学院大・京都産業大・大阪教育大・関西大がおり、これらのチームと競り合い、決勝に進出することを目指した。1 走の小谷は他大の選手と競り合いながら、48 秒台のラップをマークし、2 走の庄司に繋いだ。庄司は前を追いかけ、5 番目で眞杉にバトンを渡した。眞杉は、前の 4 大学から少し離れて単独で前を追いかける苦しい展開ながら、粘りの走りでアンカーの加藤へ繋いだ。加藤も単独走を強いられたが、必死で前を追いかけた。結果は、3 分 16 秒 37 の組 5 着で、結果進出はならなかった(谷川)

男子 5000m 決勝

- | | | |
|-----|----------------|----------|
| 1 位 | 石井 優樹(関西学院大 2) | 14.31.94 |
| 2 位 | 岩崎 祐也(立命館大 4) | 14.34.86 |
| 3 位 | 村武 慎平(立命館大 5) | 14.36.84 |

8 位 柴田 裕平(京都大 4) 14.44.77

12 位 久米 祐輔 (京都大 M1) 14.55.05

14 位 尾崎 拓 (京都大 4) 14.57.97

男子 5000m には久米、尾崎、柴田が出場した。スタート直後から 3 分/k m 前後のペースで大きな集団となってレースが進んだ。2800m を過ぎてからペースアップし、集団が大きく縦に伸びていった。尾崎は集団前方にくらいついていくものの、徐々に離されていき順位を落としていった。柴田は一度は離されるもラスト順位を上げていき、8 位でゴール。久米は 3000m から先頭集団のペースアップに対応できなかったが、ラスト 400m で切り替えて順位を上げゴールした。(相澤)

男子三段跳決勝

1 位 原田 睦希(立命館大 3)15m71 +0.5

2 位 田中 駿平(立命館大 3)15m68 +0.6

3 位 大川 亮(立命館大 3)15m31 +1.4

8 位 渡辺 祥(京都大 M2)14m78 -1.0

13 位 三神 惇志(京都大 2) 14m29 +0.7

18 位 伊東 悠希(京都大 3) 13m92 +1.4

男子三段跳には渡辺(M2)、伊東(3)、三神(2)が出場した。渡辺は怪我をしている中チームの為にと出場を決めてくれた。1 本目で足をかばいながらも 14m78 を跳びベスト 8 進出を確実に決め、4 本目以降はパスし競技を終了した。最終的な順位は 8 位となったが京大にとって貴重な 1 点をもたらした。冬の間しっかり練習が積んでいた伊東は自己ベストの更新が期待されたが、本番ではうまく実力を出し切れず悔しい結果となった。2 回生の三神は大舞台の中、堂々とした跳躍を見せた。ファールが多いのが不安要素としてあったが 1 本目からしっかり記録を残した。しかし、記録は思う

ように伸ばすことはできず、ベスト8のライン14m57には惜しくも届かなかった。伊東、三神共にまだまだ成長が見込まれる選手であり、七大戦など今後の対校戦での活躍に期待したい。(小野貴)

女子走高跳決勝

1位	秦 澄美鈴 (武庫川女大3)	1m78
2位	津田シェリアイ(東大阪大3)	1m75
3位	岩下 美桜 (大阪教育大4)	1m75
17位	林 玲美 (京都大3)	1m63

女子走高跳には林玲(3)出場した。1m55から試技を開始し、1m55, 60をそれぞれ2回目で成功させる。続いて自己記録タイの1m63はバーを揺らしながらも一度目で成功し、次の1m66でPB更新、並びに蒼穹新の更新を期待させた。しかし、1m66の試技は3回とも成功させることは出来なかった。ただ、今シーズン立て続けに自己タイを跳んでいるだけに、今後の飛躍が期待される。(大前)

女子やり投げ決勝

1位	西村 莉子(武庫川女大M2)	51m24
2位	井上 萌(大阪体育大3)	50m94
3位	小山あかね(大阪成蹊大3)	50m54
27位	中野 水貴(京都大1)	37m08

女子やり投げには中野(1)が出場した。高校時に43m台の自己ベストを記録しているが、受験勉強のブランクがある状態での出場となったため、40mを投げること为目标としていた。試合は風が強く、風向きがコロコロ変わるあまり良くないコンディションで行われた。1投目は36m38。いきなり、3週間前の記録会から2m少し記録を伸ばした。2投目は37m08と、さらに記録を伸ばした。3投目は36m52に終わ

り、全体の27位で競技を終えた。今回は目標に届かなかったが、十分に今後の活躍が期待される。(谷川)

十種競技(後半)

1位	森本 公人 (大教大M2)	7642点
2位	乾 大輔 (関学大4)	7153点
3位	別宮 拓実 (同志社大2)	6924点
5位	澤 薫 (京都大4)	6489点
	PB	蒼穹新

110mH 16.37 -0.3 PB

円盤投 30.21 PB

棒高跳 4.30

やり投 47.39 PB

1500m 4.39.52 PB

十種競技2日目には前日に引き続き澤が出場した。この日最初の種目となる110mHでは昨日に引き続きスピードを活かして自己ベストとなる走りを見せた。続く円盤投ではベストの投擲をし、30mを超える記録を出し、着実に点数を伸ばした。不調が続く棒高跳では、自己ベストには遠いものの、実力を発揮し順位を上げた。9種目目のやり投では自己ベストを更新する投擲を見せた。最終種目の1500mでは、自分のペースを守った走りで自己ベストを出し、2日間にわたる競技を終えた。総合得点としては、昨年度に引き続き、大きくベストを更新し、日本インカレの標準切りも見えてきた。順位結果は、記録上位者の途中棄権などもあり、5位と目標の8位を大きく上回る好成績で、2日間の競技を終えた。澤の6489点という記録は、従来の蒼穹記録を142点上回る記録であり、これからの記録更新にますます期待がかかる結果となった。(五十嵐)

対校得点 (三日目終了時点)

男子一部総合得点

1位	関西学院大学	105点
2位	立命館大学	77点
3位	大阪体育大学	51点
7位	京都大学	23点

女子総合得点

1位	立命館大学	61点
2位	大阪成蹊大学	52点
3位	京都産業大学	41点
	京都大学	0点

第四日目 5月12日 (金)

男子200m予選 (4-3+4)

安藤 滉一 (3) 1組5着 21.59 -0.6 PB

石田 真也 (M2) 2組 DNS

土屋 佑太 (M1) 4組3着 21.43 +0.5

Q PB

1組に安藤、4組に土屋が出場した。2組の石田は前日の100m決勝で怪我があり棄権。1組の安藤は2日前に100mと4×100mRを走っていて3本目のレースとなったが、向かい風の中自己ベストを更新。しかし、惜しくも準決勝進出とはならなかった。4組の土屋は5着までが21秒前半となるハイレベルな組であったが、自己ベストを更新し見事3着に入り準決勝進出を決めた。(相澤)

女子400mH予選 (5-3+1)

川崎 仁美 (4) 2組5着 1.06.19 PB

女子400mHには川崎が出場。休部等で練習は積めていなかったものの、今季ハードルに復帰した。学連記録会、京都インカレと調子をあげ、見事B標準を切ったの出場となった。持ち前のハードリングで前半はインターバルが詰まるほど快調に飛ばすが、6台目で歩数が乱れてしまう。そこから粘りの走りを見せPBを更新するも、組5着で準決勝進出はならなかった。(吉川)

男子400mH予選 (3-2+2)

新村 航輝 (M1) 2組 DNS

女子800m予選 (5-3+1)

岸本 絵理(4) 4組3着 2.17.07 Q PB

女子800m予選には岸本が出場した。昨年は見事ベストを出して準決勝に進んでおり、今年はさらなる記録更新と決勝進出が期待される試合であった。一周目のラップが65秒とハイペースなレースであったが、岸本はスタートから先頭集団につけラスト300mで三番手にでると、そのまま危なげなく着順で準決勝進出を決めた。タイムも自己ベストであった。(小原)

男子800m予選 (3-2+2)

土屋 維智彦 (2) 1組8着 1:56.97

木村 佑 (1) 2組3着 1:52.88

友田 浩平 (4) 3組8着 1:58.48

男子800mには1組に土屋(2)、2組に木村(1)、3組に友田(4)が出場。プラスの決勝進出ラインが1'52"09と全体的にレベルの高いレースとなり残念ながら京大勢の決勝進出はならなかった。土屋は前半果敢に攻めたが後半のペースアップに付ききれず1'56"97の組8位。木村は前半やや遅れていたものの後半で一気に巻き返して1'52"88の組3位。一回生ながら受験のプ

ランクを感じさせないような好走を見せた。友田は前半から集団の後ろに位置取る苦しい展開となったが崩れることもなく粘りの走りで最後は競り勝ち、1'58"48で組8位とパートチーフの意地を見せた。(亀田)

男子 200m 準決勝 (2-4)

土屋 佑太 (M1) 1組3着

21.50 -0.5 Q

男子200m準決勝には土屋佑太(M1)が1組に出場した。9レーンと視界に誰も映らない中でのスタート、さらに足に不安のある状態での出場であった。それゆえ出だしは慎重に入ったのか、ホームストレートに入った時には5番手6番手を争っていたが、そこからグングンとスピードを上げてトルソーで3着を確保した。タイムは21.50(-0.5)。ランキング下位、および京カレで肉離れという二つの悪条件を乗り越えての決勝進出に、応援席も大いに沸いた。(水野)

男子 3000mSC 決勝

- | | | |
|-----|----------------|---------|
| 1位 | 宇野 幹也 (同志社大4) | 9.02.71 |
| 2位 | 吉野 駆流 (大阪体育大3) | 9.02.96 |
| 3位 | 坂本 洸朔 (大阪教育大2) | 9.04.90 |
| 6位 | 岡本 和晃 (京都大M2) | 9.21.63 |
| 7位 | 岡野 颯斗 (京都大M1) | 9.21.85 |
| 15位 | 田中 仁 (京都大2) | 9.43.68 |

男子3000mSCには岡本、岡野、田中が出場した。岡本と岡野は序盤、先頭から第二集団を走った。一度は先頭集団と第二集団がつながるが、レース中盤にまた先頭集団と離れていく。第二集団前方で走る岡本に対し岡野は徐々に集団から遅れ始めるが、ラストは意地のスパートをかけ岡本に追い

つきゴール。岡本が6位、岡野が7位入賞を果たした。田中はレース序盤から積極的に走り岡本、岡野についていくが1000mを過ぎてから離されていき、レース後半で順位を落としていった。悔しい結果となったが今後の活躍に期待したい。(相澤)

女子 800m 準決勝

岸本 絵理(4) 2組7着 2.18.02

女子800mの準決勝には岸本が出場した。スタートから果敢に攻め、1周目のバックストレートで3位ぐらいの位置につけるも、オープンレーンで内側に寄ってきた他のランナーたちに周囲を囲まれ、苦しそうな走りが目立った。前と横が詰まっているため、前方に飛び出すことができず、やがて集団の後ろのほうに追いやられてしまう。2週目のバックストレートから追い越しをかけ、果敢に巻き返そうとするも、集団の前方には追い付けず、7位でゴール。惜しくも決勝進出はならなかった。(田中智)

男子 4×100mR 決勝

安藤一林大一庄司溪一澤 40.54

- | | | |
|----|-------|-------|
| 1位 | 関西学院大 | 39.11 |
| 2位 | 近畿大 | 39.49 |
| 3位 | 大阪体育大 | 39.75 |
| 7位 | 京都大 | 40.54 |

予選で蒼穹新を出しており、30秒台に期待がかかっていたが、石田が肉離れのため、2走に林、4走に澤が走るようになった。1走の安藤は上手くスタートダッシュし2走の林につなぐが、各大学のエースが走る2走で他大学と離されてしまう。2走の林から3走の庄司へのバトンは今までと走順が異なることもあり、攻めのバトンパスではなく、安全なバトンパスになった。庄司は最近調子が良く粘りの走りを見せ

た。少しつまるが突然のメンバー変更にもかかわらず上手く4走澤へバトンをつないだ。澤は十種の疲労のある中健闘した。(後藤)

女子三段跳

- | | | | | |
|----|--------|-------------|-------|------|
| 1位 | 河合 葉奈 | (大阪成蹊大 2) | | |
| | | | 12m61 | +0.1 |
| 2位 | 宮畑 さくら | (園田学園女子大 4) | | |
| | | | 12m49 | +1.6 |
| 3位 | 上梨 ライム | (大阪成蹊大 2) | | |
| | | | 12m45 | +0.3 |
| | 広川 知佳 | (京都女子大 2) | NM | |

女子三段跳びには、広川が出場した。関西インカレという大舞台で気負っていたのか、動きが明らかに固い。1本目はホップの踏切位置がびたりとあっていたものの、ステップの踏切で足がつぶれ、距離が伸びず、着地の際砂場のへりに手が触れてフェールを取られてしまった。2本目も同様にステップで足がつぶれ、同じく砂場のへりに体が触れてフェール。3本目ではホップの足が踏切位置より先に出てフェールとなり、結果的にノーマークという厳しい結果になってしまった。(田中智)

女子円盤投決勝

- | | | | |
|-----|--------|-----------|-------|
| 1位 | 清水 麻衣 | (びわ学大 3) | 45m76 |
| 2位 | 吉留 明夏里 | (立命館大 4) | 43m01 |
| 3位 | 中内 真悠 | (大阪体育大 3) | 41m66 |
| 10位 | 横山 優花 | (京都大 3) | 37m05 |

女子円盤投には横山(3)が出場した。横山は5月初めの奈良県選手権において38m77の自己ベストをマークしており、その勢い

で関西インカレでの活躍が期待されていた。当日のコンディションはよく、好記録を狙える状況だった。1投目はフェール、2投目は31m37で、3投目での巻き返しに期待がかかった。3投目は記録を伸ばしたものの37m05で、10番手となり、4投目以降に駒を進めることはかなわなかった。トップ8進出のボーダーラインは38m50と、昨年の36m79からは大幅に上がったが、実力的に十分届くレベルであっただけに悔しい結果となった。来年の関西インカレでは表彰台に上がる姿を見せて欲しい。(小谷)

男子円盤投決勝

- | | | | |
|-----|-------|-----------|-------|
| 1位 | 杵本 裕貴 | (関西学院大 4) | 49m22 |
| 2位 | 梶谷 達郎 | (京都教育大 4) | 46m42 |
| 3位 | 澤邊 翔平 | (大阪体育大 4) | 46m06 |
| 11位 | 大橋 悟 | (京都大 2) | 40m74 |
| | | | PB |

男子円盤投には大橋(2)が出場。記録は1投目が37m60、2投目が40m73、3投目が40m74であった。資格記録は37m30で下から3番目であったものの、大きくPBを更新し大きな舞台でランキングを大きく覆す成長を見せて11位に入った。(亀田)

対校得点 (四日目終了時点)

男子一部総合得点

- | | | |
|----|--------|------|
| 1位 | 関西学院大学 | 145点 |
| 2位 | 立命館大学 | 81点 |
| 2位 | 大阪体育大学 | 81点 |
| 8位 | 京都大学 | 17点 |

女子総合得点

- 1位 立命館大学 80点
 2位 大阪成蹊大学 71点
 3位 武庫川女子大学 56点
 京都大学 0点

第五日目 5月13日(土)

女子 10000mW 決勝

- 1位 河添 香織 (立命館大4) 45:46.89 NGR
 2位 杉山 智香 (同志社大2) 47:57.22
 3位 外所 知紗 (同志社女大2) 48:22.33
 7位 高野 寛子 (京大3) 53:08.74

女子 10000mW には高野が出場した。スタート直後から立命館大の河添が一人抜け出し、その後ろに二つの集団ができて高野はその最後尾から様子をうかがう展開となった。その後スタート直後から飛ばしすぎてペースを落とした他選手をかわしていき、2000m 手前で3人の7位集団を形成し前を追う形になった。しかしそこからペースが上がらず、5000m 付近で7位集団の一人を振り落とすも2位集団2人に周回遅れとなる。このままレース終盤に突入し、ラスト 100m で神戸大の福田と熱いデッドヒートとなるが執念の歩きで相手を刺しきり、目標としていた表彰台には手が届かなかったが京大に貴重な2点をもたらした。(三神)



京大の女子の中で唯一得点を獲得した高野寛。

男子 10000mW 決勝

- 1位 山西 利和 (京大4) 39:24.49 NKR NGR **蒼穹新**
 2位 持田 颯人 (同志社大2) 42:16.92
 3位 高野 圭太 (京大3) 43:10.71
 大本 康平 (京大4) DQ

男子 10000mW には山西(4)、大本(4)、高野(3)の3名が出場。山西はスタート直後から飛び出して関西学生新記録の 39.24.49 で優勝。2位以下を全員周回遅れにする圧倒的な実力を見せつけ、最優秀選手にも選ばれた。高野は2位を目標としたが 43.10.71 で3位。レースの初めは2部の先頭集団とともに歩き同志社の選手と2位争いをしていたが3000すぎで脱落。以降は単独のレースに終始した。大本は前半は1部の6位集団で歩いていたがロスオブコンタクトでの警告が3枚だされ7000手前で失格となった。山西の関西学生新もあって24点を獲得し京大競歩の強さを見せた。(亀田)



他の選手を全く寄せ付けない走りで、王者の貫禄を見せつけた山西。

男子 200m 決勝 -0.1

- 1 位 三原 雅司 (大阪教育大 M1) 21.31
- 2 位 伊里 洋海 (関西学院大 2) 21.39
- 3 位 笠谷 洸貴 (近畿大 1) 21.40
- 8 位 土屋 佑太 (京都大 M1) 21.90

京大からは、土屋(M1)のみの出場となった。京都インカレで怪我をしてしまったため練習は十分に詰めていなかったが、関西インカレに調子を合わせ、決勝まで進んだ。怪我明けの土屋は外側 8 レーンからのスタート。ひとつ外には優勝した三原がいる。コーナー入口ですこし遅れをとるも、得意の後半で追いつく。怪我明けで、3 レース目の 200m というのもあってか、延びきらず、追いつきも及ばず 8 位でのフィッシュ。1 点を獲得した。(黒瀬)



ベスト更新と入賞を果たした土屋佑。来年はさらに上位での入賞が期待される。

男子 10000m 決勝

- 1 位 石井 優樹 (関西学院大 2) 30:14.04
- 2 位 藤原 直樹 (関西学院大 4) 30:14.76
- 3 位 奥村 杏平 (京都産業大 4) 30:15.26
- 6 位 尾崎 拓 (京都大 4) 30:22.05
- 9 位 柴田 裕平 (京都大 4) 30:35.07
- 21 位 下迫田 啓太(京都大 M2) 32:33.94

男子 10000m には柴田(4)、尾崎(4)、下迫田(M2)が出場。スタートから 1500m までは柴田が先頭に立ちレースを引っ張る展開。3000m あたりから下迫田が集団から遅れる。中盤からはペースが目まぐるしく変化する難しいレース展開となった。先頭集団の揺さぶりあいの中で、9000m 手前のペースアップで柴田が遅れる。尾崎は最後の 1 周まで先頭に食らいつき、6 位に入

賞。柴田は7,8,9位争いに敗れ9位となり、入賞にあと一步及ばなかった。下迫田は結局21位でフィニッシュ。悔しい結果となった柴田、下迫田には伊勢予選でこの悔しさを晴らす走りを期待したい。(本居)

女子走幅跳決勝

1位	辻本 愛莉香 (大阪成蹊大 4)	6m21	+0.8	NGR
2位	山下 友佳 (立命館大 2)	6m09	-0.5	
3位	秦 澄美鈴 (武庫川女大 3)	6m02	+0.9	
31位	広川 知佳 (京都女子大 2)	5m12	+0.5	

女子走幅跳には広川(2)が出場。トップ8進出ラインは5m75とハイレベルであった。広川は前日の三段跳の疲労や緊張もあってか、足合わせの段階から動きが固く助走スピードが上がらない。本番では少し修正できたものの、踏み切りにもいつもの鋭さがなく、結果は5m12で31位に終わった。大舞台で自分のパフォーマンスができず、悔しい結果に終わってしまったが、この悔しさをバネに今後の活躍に期待したい。(本居)

男子走高跳決勝

1位	竹村 慎之介 (関西学院大 4)	2m18
2位	藤田 溪太郎 (立命館大 2)	2m10
3位	境内 航 (同志社大 4)	2m10
16位	竹田 風馬 (京都大 4)	1m85

関西インカレ標準切りの最後のチャンスである三大戦でとうとうB標準である195を跳ぶことに成功。関カレ当日は緊張のためかどこか動きにぎこちなさを感じられた。185、1本目失敗。2本目にて成功。190は3本とも失敗に終わった。バーに体当たりしてしまうなど全体的に踏み切りがしっくりきていないように思われた。七大戦でも2mを超えていかないと得点できない厳しい戦いとなる。今回は悔しい結果に終わったが、七大戦では2mを超える跳躍を期待したい。(林玲)

男子棒高跳決勝

1位	大久保 圭介(関西学院大 2)	5m10
2位	石川 明斗 (関西学院大 4)	5m00
3位	田熊 友樹 (大阪体育大 4)	5m00
12位	珍坂 涼太 (京都大 4)	4m00
	澤 薫 (京都大 4)	NM

珍坂は最初の高さ3m80をパスし、4m00から登場。はじめ2本はやや動きが硬かったが、3回目で成功した。続く4m20は非常に惜しい跳躍が続いたが、クリアはならず記録は4m00に終わった。一方の澤は前日に急遽4継決勝に出場し、また十種競技のあとで身体が限界であったことから、珍坂のサポートに専念し、試技放棄という形で出場は回避する形となった。(伊東)

女子砲丸投決勝

1位	田村 満孔(大阪体育大 2)	14m55
2位	山本 遥(大阪体育大 3)	13m85
3位	麓 沙恵(神戸大 4)	13m63
19位	横山 優花(京都大 3)	9m65

女子砲丸投には横山(3)が出場した。横山は円盤投を専門としており、砲丸投はほとん

ど練習を行わず出場することになった。決勝進出には 12m 半ばの記録が要求され、現状では太刀打ちできないと感じられた。今後は、投擲パートを引っ張る存在として七大戦での活躍に期待したい。(大橋)

男子やり投決勝

1 位 中西 啄真(大阪体育大 M1)73m22

2 位 石坂 力成(大阪体育大 2) 71m75

3 位 坂本 達哉(大阪体育大 3) 70m56

14 位 中山 奎吾(京都大 3) 57m70

男子やり投には中山(3)が出場した。肘に怪我を抱えており、なかなか思うように投げることができなかった。決勝進出は 62m22 であり、十分に狙える位置にいただけに悔やまれる。しかし、さまざまな課題を試合の中で確認することができたため、今後の復調に期待するとともに、蒼穹新記録の更新にも期待したい。(大橋)

4. 新入生名簿

氏名	ふりがな	パート	専門種目(ベスト)	学部学科	出身高校
浅井 良	あさい りょう	短長	400m(48"12)	工・物理	瑞陵
			800m(1' 53"83)		
芦田 開	あしだ かい	短短	100m(11"94)	工・工化	洛星
安藤 百香	あんどう ももか	マネージャー		文	国立
飯田 駿介	いいた しゅんすけ	中	800m(2' 16"19)	総人	海城
上島 ほのか	うえしま ほのか	中	1500m(5' 10)	ダム女・英文	金光大阪
宇佐美 岳良	うさみ たから	中	1500m(4' 06)	工	四日市
岡本 郁翔	おかもと いくと	中	800m(2' 03"27)	経	大阪星光
梶原 隆真	かじわら たかまさ	短短	走幅跳(5m85)	理	堀川
加藤 寿昂	かとう としあき	短短	100m(10"93)	法	金沢錦丘
木村 佑	きむら たすく	中	800m(1' 52"27)	農・森林	水戸第一
			1500m(3' 57"98)		
清原 陸	きよはら りく	中	1500m(4' 01"24)	工・地球	大手前
久住 あかね	くすみ あかね	長	3000m(11' 25)	農・資源	清教学園
澤田 剛	さわだ つよし	混成	400mH(57"40)	工・物理	栄光学園
津吉 順平	つよし じゅんぺい	長	未経験者	工・物理	開明
中野 克哉	なかの かつや	ハードル	400mH(55"84)	工・工化	膳所
中野 水貴	なかの みずき	投擲	やり投(43m25)	工・建築	清風南海
長谷川 隼	はせがわ しゅん	ハードル	400mH(56"40)	理	桐朋
花房 柚衣香	はなふさ ゆいか	ハードル	100mH(14"97)	教育	兵庫
			400mH(65"02)		
久田 雅人	ひさだ まさと	長	1500m(4' 00)	工・工化	西春
			5000m(15' 05)		
平野 亘	ひらの わたる	ハードル	400mH(55"89)	農・資源	宇都宮
藤田 歩	ふじた あゆむ	投擲	未経験者	法	清風南海
藤野原 穂香	ふじのはら ほのか	マネージャー		ダム女・英文	暁の星女子
堀葉 俊春	ほりば としはる	短長	400m(52"49)	法	北野
前田 裕也	まえだ ゆうや	中	1500m(4' 08"91)	農・資源	国立
増尾 浩旗	ますお こうき	混成	100m(11"47)	経	東海
横山 寛樹	よこやま ひろき	跳躍	走幅跳(6m07)	工・工化	奈良
吉川 樹	よしかわ いつき	跳躍	走高跳(1m89)	総人	東大寺

2回生	清水 裕美子	しみず ゆみこ	マネージャー		医・人健	大阪桐蔭	
2回生	中空 聡斗	なかぞら あきと	長	1500m(4' 28)	工・工化	神戸	
M1	大和 祐己	やまと ゆうき	ハードル	110mH(15"47)	工科・電気工学	近大和歌山	神戸大
入部検討	工藤 駿平	くどう しゅんぺい	トレーナー		理	膳所	

5. 関西インカレOB様名簿

渥美 保様	S35	三島 宏夫様	S35
山崎 稔様	S36		
中江 祐三郎様	S36	杉本 明洋様	H16
市川 哲様	S38	中東 太一様	H24
平井 真一郎様	S40	泉 奏子様	H28
森本 正幸様	S41	坂上 小百合様	H28
藤原 忠義様	S41	松岡 茜様	H28
鯉谷 忠夫様	S41	我妻 総様	H28
山本 浩造様	S43		
勝村 弘也様	S44		
津野 洋様	S45		
中村 茂夫様	S48		
池本 忠司様	S49		
桂 総一郎様	S51		
森 正治様	S51		
宮下 欣二様	S51		
真野 勝文様	S53		
三好 稔彦様	S54		
重村 光男様	S54		
北村 公亮様	S55		
熊谷 元様	S59		



蒼穹ニュース 平成29年度 第2号

平成29年5月19日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：潮崎羽・水野廉也・三谷圭（副務）

特別協力：秋本啓太・三田村侑紀・山内美佳（学連員）

谷口博紀・富永貴弘（記録係）・清水良輔（HP 係）

写真担当：後藤加奈・土屋維智彦・広川知佳

発行所：京都大学体育会陸上競技部

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>

陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス onyourmarks.136@gmail.com（水野）